

第10回奈良 ESD 連続セミナー概要報告

- ◇開催時期 平成30年1月5日(金)
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 池見・大西・圓山・阿彌(飛鳥小)、石田(済美)、池見(大宮小)、河野(附属小)、山方(都跡小)、中澤(平群北小)、島(郡山西小)、藏前(真美ヶ丘第一小)、
檜原(ESD学会事務局)、北村(御所市教育委員)、
池上、春日、森本、口脇、谷垣、栗谷(奈良教育大) 計19名
- ◇内容 指導案の検討

1、「水の恵み～川上村から学ぶ持続可能な水の使い方～」(第4学年)

大和郡山市立郡山西小学校 島 俊彦先生

- ・課題を明確にしてアクションプランにつながっていくのではないだろうか。
- ・上質なお米が育つ要因は吉野川分水の豊かな清流とあるが、他にも要因があり、言い切れるのか。
子どもの身近な富雄川の水質から入ったら入りやすいが、川上村にどうつなげていくのか迷っている。
西小宣言の活用・発信方法について考えている。
- ・富雄川は実際に汚れているのか。
富雄川の源流域も川上村の源流域と同じようにきれいとは思いますが、中流・下流と下るにつれて生活排水などで汚れてくるので、子どもの課題になるのではないかと考えた。
- ・単元名に・・・水の使い方とあるが、活動内容は水の捨て方が重きになっているのではないか。
- ・特Aのお米から入ることになっているが、水だけがおいしいお米ができる要因ではないので、おにぎりを食すから入るのには、少し無理があるのではないか。
- ・川上村を子どもたちは知らないと思うので、「川上村」を様子から入るのでもよいのではないか。
- ・吉野川分水は既習なので、水の使い方に目を向けていくのが普通だが、自分たちの使った水に責任を持たすという視点はよいのではないか。
- ・川の場合は上流や下流の水質については、比較対象があるのでわかりやすいが、おにぎりの場合はおいしいことがわかるのだろうか。
- ・西小宣言のアクションプランで子どもたちにどこまで行動化を求めていくのか。
アクションプランは子どもたちの生活範囲で入れていきたい。



2、「落語で語ろう地域の魅力」～〇〇寄席を開こう～(第4学年)

広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前 拓也先生

- ・地域の魅力を学習して発信する方法として、落語というツールを使って発信することは面白い。
- ・地域を語る力としてのコミュニケーション力の育成はわかるが、構成概念としては今のところ少し分からない。

- ・落語で発信するという事は、地域を守るということにつながるのではないかな。
- ・落語の部分で国語で、地域の魅力を探る部分は総合で行い、落語という手段で発信を行ってはどうだろうか。
- ・「何が魅力なのか」ということがわかれば、個性概念もわかってくるのではないかな。
- ・落語を通して、何を学ばせようとしているのかが ESD につながるのではないかな。
- ・落語が守るべき伝統文化として受け継がれてきている価値あるものであるという展開もできるのではないかな。
- ・子どもたちがどのようにして小話を作っていたのか。
- ・落語を通して何を学ばせるのかが見えてこない。
- ・落語も受け継がれてきているものなので、他にもそのようなものがないのだろうかという展開もできるのではないだろうか。



3、「農家の仕事」～結崎ネブカづくり～（第3学年）

奈良教育大学 社会科教育専修

春日 千鶴葉

- ・3年生でネブカで10時間をとるのは難しいのではないだろうか。
- ・まとめのところでは、ネブカを知ってそれを発信することでよいのではないだろうか。
- ・結崎ネブカづくりを受け継ぎますか(まとめ①)
 受け継ぐ → 高学年ではディベートができる
 受け継がない → 3年生ではどうだろうか。
- ・まとめ①の後まとめ②の課題にどうつながるのだろうか。
- ・ネブカをつくる難しさを学習しているので、まとめ①を省いて、まとめ②の課題に行ったらどうだろうか。
- ・キャッチフレーズを考えるは面白いので、それを発信していったらどうだろうか。
- ・指導要領の内容(2)を受けた課題設定を行うべきである。
- ・結崎ネブカは地域のものであり、見学等ができるものとしていいのだが、特徴的な生産物であり、生産量も少ないので、3年生として取り上げるのに適切であるのだろうか。
- ・結崎ネブカの歴史は大切なのだが、3年生に時間軸については、難しいのではないだろうか。
- ・伝統野菜を取り上げるとき、「しんどい・儲からない」のになぜ作っているのという、農家の人の思いを追究することで、取り上げる良さが出てくると思うが、3年生でそこまで必要なのか。
- ・なぜ3年生で行おうとしたのか。
 地域限定の野菜なので、他の学年に広げることができないと考えた。
- ・伝統野菜を取り上げたときのメリットが4つあり、その4つを取り上げられるのが5年生であった。
- ・社会科に限らず、6年生の家庭科の中でも取り上げることが可能なのではないだろうか。



4、Lesson4 Speect—A Man' s Life in Bhutan (TOTAL ENGLISH3)

奈良教育大学 英語教育専修

口脇 和

- ・英語という言語教科でESDを抑えるのは難しいと思った。
- ・英語の授業を入り口として総合的な学習で西岡京治さんに視点を当てたらどうだろうか。
- ・発問で、「どんな人々を助けられるか」とあるのだが、これよりも4Cの
The important thing is 【to give others both our time and skills・・・】の【】部分を空白にして、『何が大切か』を問うようにしたらどうだろうか。
- ・西岡さんの人柄や活動に目を向けていくと英語の授業としてはお
おかしいので、スピーチをしている人に焦点を当ててはどうだろ
うだろうか。
- ・trustedの過去形を使わず、began to trustと表現しているので、ス
ピーチしている人の価値判断が入り、表現の中にESDの視点が入るのではないだろうか。
- ・西岡さんに対する思いを表現方法で学び、最後のスピーチを学んだことを使って自分の表現をすれ
ば西岡さんに限らなくてもよいのではないか。
- ・教材としては興味深いので、西岡さんの取り組みや生き方に注目して子どもたちが英語でスピーチ
すればよいのではないだろうか。
- ・発表をとあるが、例文としては短いのではないだろうか。
 レッスン6まであり、本来はそこでスピーチになっている。
- ・英語科は内容理解よりもコミュニケーションの基礎を養うことが目的なので、英語科とESDを並べ
たときにゴールが一致しないので、難しい面もある。
- ・西岡さんに視点を当てた各課題に対して、「どうしてだろう」と考え、自分の考えをスピーチしてい
くことではダメなんだろうか。
- ・4Cの下段の質問は内容確認と思うが、ある程度自由な考えを入れてもよいのではないだろうか。
- ・「～を通して」考えるのが大切である。西岡さんを通して何を考えていくのかは、英語科ですべて行
うのは難しいのではないか。
 レッスン6で完結し、終了後でのスピーチは、「尊敬する人物」について行うとある。



※ 次回のESD連続セミナーは、1月25日(木)です。発表者は、中澤先生及び3人の方を予定していま
す。中澤先生の指導案は今回配布してありますので、忘れずに持参してください。また、発表予定
者は23日(火)までに jizoku@nara-edu.ac.jp 川村・辰巳宛で送ってください。持参の場合25部
お願いします。

※ 1月20日(土) 第3回ESD実践勉強会
内容 「ESDと平和の創造」
時間 13:00～17:30
場所 奈良教育大学 講義棟2階 206期洋室